

# 2026年度 事業計画

2026年4月 1日から  
2027年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

2026年3月作成

# 目 次

所信	2
国際競技大会参加予定一覧	4
事業の方針	
Ⅰ 競技力向上事業（選手派遣事業）	5
1. JOC 派遣事業	
2. 本連盟派遣事業（主要大会）	
Ⅱ 競技力向上事業（選手強化事業）	5
1. 競泳強化事業	
2. 飛込強化事業	
3. 水球強化事業	
4. アーティスティックスイミング強化事業	
5. オープンウォータースイミング強化事業	
6. 科学事業	
7. 医事事業	
8. アンチ・ドーピング事業	
Ⅲ 競技運営推進事業（競技大会開催事業）	13
1. 国内競技会開催事業	
2. 国際競技会の開催事業	
3. 競技委員会事業	
4. 国際関係事業	
Ⅳ 競技運営推進事業（競技条件整備事業）	16
1. 競技者登録事業	
2. 競技規則制定事業	
3. 競技役員養成・登録事業	
4. 競技記録公認・管理事業	
5. 施設用具公認推薦事業	
Ⅴ 普及事業	17
1. 指導者養成事業	
(1) 地域指導者養成事業	
(2) 競技力向上コーチ養成事業	
(3) 水泳教師養成事業	
2. 生涯スポーツ・環境事業	
3. オープンウォータースイミング普及事業	
4. 日本泳法保存事業	
5. 機関誌発行事業	
6. 広報事業	
7. アスリート委員会事業	
8. 国際貢献事業	
Ⅵ 組織運営のための共通事業	21
1. 総務関係事業	
2. マーケティング事業	
3. 特別委員会事業	
Ⅶ 組織運営および財政基盤の確立	22

## 所 信

2025年、シンガポールで開催された世界選手権では、金1個・銀4個・銅3個を獲得し、各種別で若手選手の台頭と強化事業の成果が随所に見られました。パリオリンピックで躍進した松下知之選手、村佐達也選手、成田実生選手をはじめ、次世代を担う選手たちが国際舞台で存在感を示し、日本水泳界の未来を感じさせる一年となりました。飛込では混合団体で銅メダル、アーティスティックスイミング(AS)ではチームフリールーティーンで銀メダルを獲得し、水球も強豪国に劣らぬ試合内容が多く、女子が初のベスト8、男子が9位と着実に力をつけています。オープンウォータースイミング(OWS)では、梶本一花選手が女子5kmで日本初の銅メダルを獲得し、翌日の3kmノックアウトスプリントでは初代女王に輝き、ロサンゼルスオリンピックでの初のメダル獲得が大いに期待されます。課題も残るものの、パリオリンピックの反省をもとに各種別の取り組みが確実に成果へと結びついております。

そして本年2026年は、国内で第20回アジア競技大会を迎える勝負の年です。日本水泳界は「センターポールに日の丸を」を掲げ、世界の舞台で再び主役となるべく、覚悟をもって挑戦してまいります。選手が最高の力を発揮できる環境整備を最優先に、強化体制の改革と組織運営の透明性向上を断固として進めてまいります。

同時に、水泳は競技を超え、社会に不可欠な価値を持つ「命を守るスポーツ」です。しかし今、学校水泳の縮小により、子どもたちの間に“水に触れる機会の格差”が広がっています。水泳は体験なくして習得できず、その体験の有無が命を左右することすらあります。だからこそ、すべての子どもたちに水泳を体験する権利を守り抜くことは、社会全体の責任であり、私たち連盟の揺るぎない使命です。

日本水泳連盟は、国・自治体・教育現場と連携し、「国民皆泳」の理念のもと、水辺の安全と健康増進に向けた取り組みを一層強力で推進してまいります。

また、「する・みる・ささえる」すべての仲間=AQUA CREWとともに、水泳が人々の生活を豊かにし、社会をより健やかにする未来を創り上げていきます。

選手派遣・選手強化事業では、ロサンゼルスオリンピックを最重点大会と位置づけ、金メダルを含む複数のメダル獲得を目指します。あわせて、主要な国際大会への参加による実戦強化を通じ、全種目・全カテゴリ代表が国際大会において自己最高成績を更新することを目的とする、いわゆる「競技会強化」に取り組み、競技力の向上を図ります。さらに、次世代選手の強化にも積極的に取り組み、より高いレベルで戦える選手の早期育成と選手層の拡充を推進します。

競技運営推進事業では、世界選手権(福岡)で証明された国際基準の高品質な大会運営ノウハウを継続・発展させるとともに、国内競技会において主管団体と連携し、その成果を全国に展開することで、統一的かつ高水準な競技会運営の実現を図ります。

指導者養成事業では、指導者養成3委員会による協議および協働を継続し、スポーツ文化の創造ならびにスポーツの社会的価値の向上に貢献できる指導者の養成に取り組みます。あわせて、減少傾向にある指導者資格保有者数の維持・増加を図ります。また、学校体育における水泳授業の民間委託の進展や、学校部活動の地域連携・地域スポーツクラブ活動への移行が加速する中、指導力の向上および平準化を目指し、その基盤として資格取得の必須化に向けた施策を講じます。

生涯スポーツ・環境事業では、老若男女を問わず「泳力検定（飛込検定・ASバッジテスト・OWS検定含む）」や「水泳の日」、「スイムスマイルプロジェクト」などの取り組みを通じて、水泳の楽しさを広く伝えていきます。あわせて、青少年の健全な成長を支援するとともに、高齢化社会におけるウェルネススポーツとしての水泳の価値を高め、主体的な参加とウェルビーイング活動の推進を図ります。また、「命を守ることができるスポーツ」水泳の教育環境を継続的に整備し、国民皆泳の実現や水難事故防止に向けた啓発活動を全国規模で展開をしております。

総務関係事業では、新たに策定した「水泳ニッポン・新時代構想」の進捗管理を行うとともに、「スポーツ団体ガバナンスコード<中央競技団体向け>」に適応した組織運営を継続し、ガバナンスの強化およびコンプライアンスの徹底、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性）の向上に取り組みます。また、人材の育成と適正配置により自主財源の確立およびマーケティング、PR活動についても注力します。

広報事業では、水泳競技への注目度を一層高めるとともに、水泳ファンおよび水泳愛好者へのリーチ拡大を意識した各種情報発信に取り組みます。そのため、広報戦略を見直し、デジタルプラットフォームの拡充を通じて「AQUA CREW」の拡大を目指します。

競技条件整備事業では、競技者登録管理システム「WebSWMSYS」、競技会記録速報ツール「超速」の安定運用および機能拡充を推進します。

これら組織基盤の強化を図りつつ、世界水泳連盟（AQUA）、スポーツ庁、（公財）日本スポーツ協会（JSPO）、（公財）日本オリンピック委員会（JOC）などの関係機関・団体との連携強化および協働を推進します。また、水と共生できる社会の実現を目指し、世界共通の大切な資源である「水」を利用するスポーツのチカラを通じて、持続可能な社会の実現に向けた水先を先導していき、水泳競技の永続的な発展と競技団体としての価値向上を目指します。

結びになりますが、日本水泳界は次の100年に向け、新たな航路へと踏み出しました。新たなステージへの果敢な挑戦と、日本水泳界の確かな未来の実現に向け、各加盟団体と情報共有および意思疎通をこれまで以上に密に図り、水泳界が一丸となった「オールジャパン体制」を、より一層強固なものとしてまいります。皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬ、そして一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2026年3月15日  
会長 鈴木 大地

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競技会	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
競  泳	オリンピック大会			◎	
	世界選手権		◎		◎
	アジア大会	◎			
	ワールドユニバーシティゲームズ		◎		◎
	パンパシフィック選手権	◎			
	アジア選手権			○	
	世界選手権 (25m)	○		○	
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会	○			
	世界ジュニア選手権		○		○
	ジュニアパンパシフィック選手権	○		○	
	アジアエージ選手権	○			
飛  込	オリンピック大会			◎	
	世界選手権		◎		◎
	アジア大会	◎			
	ワールドユニバーシティゲームズ		◎		◎
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	アジア選手権			○	
	ユースオリンピック大会				
	アジアエージ選手権				
	世界ジュニア選手権	○		○	
水  球	オリンピック大会			◎	
	世界選手権		◎		◎
	アジア大会	◎			
	ワールドユニバーシティゲームズ		◎		◎
	アジア選手権			○	
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権 (U20)		○		○
	世界ユース選手権 (U18)				
	世界カデット選手権 (U16)				
	アジアエージ選手権 (U19)	○			
ア ー テ ィ ス テ ィ ッ ク  (A S)	オリンピック大会			◎	
	世界選手権		◎		◎
	アジア大会	◎			
	アジア選手権			○	
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権	○		○	
	世界ユース選手権		○		○
	アジアエージ選手権	○			
オ ー プ ン ウ ォ ー タ ー  (O W S)	オリンピック大会			◎	
	世界選手権		◎		◎
	パンパシフィック選手権	◎			
	アジア選手権			○	
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権	○		○	

## 事業の方針

### I 競技力向上事業（選手派遣事業）

選手派遣事業は、本連盟の財源に加え、国の補助金や助成金などの公的資金を活用して実施されることから、費用対効果を含めた評価および報告の義務が課せられる。ロサンゼルスオリンピックへ向けた1年目としては、各種目それぞれのマイルストーンに沿って概ね計画通り進めることができたと考える。2025年度に急遽実施されたアジア選手権については、2032年を見据えたジュニア強化へと焦点を当てて、派遣をしたことにより、時代を担う若手選手を強化できたことも良かったと言える。今年度は自国開催であるアジア競技大会を重点大会として位置づけるとともに、2027年度のオリンピック出場権利獲得につながるよう、強化の土台をより一層確固たるものにしていきたい。また強くあり続けるためには、各派遣における目標達成に向けた計画立案や事前準備を徹底し、派遣事業がより効果的に実施されるよう取り組む。さらに、情報開示を適切に行い、長期的な強化プランを共有することで日本全体として競技力を維持・向上させ、強くあり続けることを目指したい。

#### 1. JOC 派遣事業

##### (1) アジア競技大会

① 期間・場所	9月19日～ 10月4日	日本：愛知・静岡・東京
② 競技種目・日程		
(a) 競泳	9月20日～ 9月25日	東京
(b) 飛込	9月26日～ 9月30日	東京
(c) 水球	9月20日～ 10月3日	愛知
(d) AS	9月26日～ 9月28日	静岡

### II 競技力向上事業（選手強化事業）

2026年度は、4年周期で進めるオリンピック強化の中間年にあたる。月1回開催する特別強化本部会議を通じて5部門の進捗状況を常に確認するとともに、国際情勢の把握、新ルールへの適応も着実にを行い、効果的な選手強化事業を実施していく。選手強化事業における最大の目標は、ロサンゼルスオリンピックでの選手の活躍であるが、2032年ブリスベンオリンピックを見据えて各種目における世代交代を進めながら、ジュニア世代の強化も確実に実施する必要がある。そのため、長期強化プランを基軸とし、効果的かつ計画的な施策を推進していく。また、昨今の社会情勢も踏まえ、事業の実施時期や方法についても柔軟な考え方のもと、時代に即したものも取り入れていきたい。

#### 1. 競泳強化事業

2025年度は、7月にドイツでワールドユニバーシティゲームズが開催され、32名の選手を派遣して金3、銀5、銅7の計15個のメダルを獲得した。続いてシンガポールで開催された世界選手権には競泳から33名の代表選手を派遣し、銀3、銅1、計4個のメダルを獲得した。入賞は個人13（男子7、女子6）、リレー3の計16となり、今大会で競泳チームが目標としていた①複数人のメダリスト輩出、②パリオリンピックを上回る入賞数（14以上）という目標を、ともに達成することができた。メダリストには昨年のパリオリンピックに続いて銀メダルを獲得した松下知之選手（男子400m 個人メドレー）をはじめ、ベテランの渡辺一平選手（男子200m 平泳ぎ銀メダル）、若手の成田実生選手（女子400m 個人メドレー銀メダル）と村佐達也選手（男子200m 自由形銅メダル）が名を連ねた。ロサンゼルスオリンピックに向け、ベテラン選手と若手選手が融合したチームづくりが着実に実を結んでおり、明る

い材料である。

8月にルーマニア・オトペニで開催された世界ジュニア選手権には12名の選手を派遣し、個人種目では男女各1名が金メダルを獲得した。さらに、男子および混合の2種目のリレーでも金メダルを獲得した。アメリカやロシアなどが30名を超える大規模な選手団を派遣する強豪国がひしめく中、日本チームは少数精鋭ながら、金4、銀8、銅6の計18個のメダルと入賞28という成績を収め、これらの強豪国に迫る活躍を見せた。日本の次世代選手の勢いを世界に強くアピールすることができた。

2026年は8月にアメリカ・アーバインでパンパシフィック選手権が、カナダ・バンクーバーでジュニアパンパシフィック選手権が開催され、9月にはアジア大会が東京アクアティクスセンターで開催される。2年後のロサンゼルスオリンピックに向け、世界に通用する次世代の有力選手たちをいかにして次のステージへ引き上げ、世代間をオーバーラップさせられるか、覚悟をもって強化に取り組む所存である。

### (1) 国際競技会

① シドニーオープン	5月15日～5月17日	オーストラリア・シドニー
② ヨーロッパグランプリ	5月23日～5月31日	モナコ、スペイン、フランス
③ パンパシフィック選手権	8月12日～8月15日	アメリカ・アーバイン
④ ジュニアパンパシフィック選手権	8月17日～8月20日	カナダ・バンクーバー
⑤ アジア大会	9月20日～9月25日	東京アクアティクスセンター(TAC)
⑥ AQUA ワールドカップ	10月1日～10月17日	アゼルバイジャン、ウズベキスタン、カザフスタン
⑦ ユースオリンピック	10月31日～11月13日	セネガル・ダカール
⑧ 世界選手権 (25m)	12月1日～12月6日	中国・北京
⑨ 全国11ブロック代表海外派遣	3月16日～3月21日	シンガポール

### (2) 強化トレーニング合宿

① パンパシ・アジア大会国内合宿①	4月～5月	NTC-E
② パンパシ・アジア大会国内合宿②	6月	NTC-E
③ パンパシ海外高地合宿	7月～8月	アメリカ・フラグスタッフ
④ ジュニアパンパシ国内合宿	7月～8月	JISS
⑤ パンパシ海外調整合宿	8月	アメリカ・ミッションビエホ
⑥ ジュニアパンパシ海外調整合宿	8月	カナダ・バンクーバー
⑦ アジア大会国内合宿③	9月	NTC-E
⑧ 秋季エリート小学生合宿	10月	NTC-E
⑨ 世界選手権(25m)国内合宿	10月	NTC-E
⑩ メダルターゲット海外高地合宿	11月	アメリカ・フラグスタッフ
⑪ インターナショナル合宿① (7-リール強化含む)	11月	NTC-E
⑫ スプリント合宿	11月	JISS、NTC-E
⑬ インターナショナル合宿②	12月	NTC-E
⑭ ナショナル合宿	12月	富士水泳場/スポーツの杜鈴鹿
⑮ 全国11ブロック合宿	12月	全国各地
⑯ インターナショナル合宿③	2月	NTC-E
⑰ ワールドユニバーシティゲームズ強化合宿	2月	JISS
⑱ スプリント合宿	2月	NTC-E
⑲ 五輪候補個別合宿(海外)	未定	各地

### (3) コーチ派遣・招聘

① ロサンゼルスオリンピック事前合宿候補地視察	未定	未定
-------------------------	----	----

- |                |       |             |
|----------------|-------|-------------|
| ② 全米選手権視察      | 7月～8月 | アメリカ・アーバイン  |
| ③ コーチカンファレンス参加 | 9月    | アメリカ又はヨーロッパ |

#### (4) 企画・研修および講習会

- |                     |       |            |
|---------------------|-------|------------|
| ① 春季エリート小学生オンライン研修会 | 4月    | オンライン      |
| ② マスタープラン会議         | 8月/9月 | HPSC       |
| ③ 強化コーチ会議(春季)       | 4月    | オンライン      |
| ④ 強化コーチ会議(秋季)       | 10月   | HPSC/オンライン |
| ⑤ ナショナルオンライン研修会     | 11月   | オンライン      |

## 2. 飛込強化事業

2025年にシンガポールで開催された世界選手権では、個人5種目、シンクロナイズド2種目、チームイベントにエントリーし、選手8名・スタッフ5名からなる選手団を派遣した。その結果、6種目で決勝進出を果たし、4種目で入賞という成果を収めた。中でもチームイベントに出場した坂井丞選手、三上紗也可選手、西田玲雄選手、金戸凜選手の4名によるチームが銅メダルを獲得した。これは日本飛込界が104年間切望し続けたパリオリンピックでの初メダル獲得に続く快挙であり、個人・シンクロ両種目において強化が進んだ結果、強豪国と肩を並べる総合的な成果を残すことができた。その要因として、男女・個人・シンクロナイズドの全方位において競技力が向上したことが挙げられる。今後はロサンゼルスオリンピックを見据え、メダル獲得をいかに継続していくかを課題とし、「国際競技会強化」「重点強化」「拠点強化」の3つの視点から強化事業を展開していく。

「国際競技会強化」では、地元開催のアジア大会での活躍を重点目標に掲げる。これを2028年ロサンゼルスオリンピックに繋がる代表チームの礎と位置づけ、AQUAワールドカップ大会への派遣も重要な強化策とする。同シリーズは世界選手権やAQUA公認大会の実績に基づきトップレベルの選手が集結する大会であり、第1戦のカナダ大会、第2戦のメキシコ大会に派遣するとともに、最終戦となる中国ファイナル大会でさらなる競技力向上を図る。一方で、ジュニア選手の台頭も急務である。ジュニアナショナル選手の育成を目的として、アジアエージ選手権(時期・場所未定)を経て、世界ジュニア選手権(COR)へ派遣し、上位入賞を目指す。この国際2大会を通じて、技術面・精神面ともに優れた勝負強い選手を早期に育成していく。

「重点強化」としては、メダルアスリート事業(MA)を策定し、日本飛込界全体で選手を支える体制を基盤として、長期的な強化を推進する。パリオリンピックメダリストの玉井陸斗選手を継続重点強化指定とし、オーストラリアおよびロサンゼルスでの強化合宿を計画している。また、メダルポテンシャルアスリート事業として、三上紗也可選手を対象に、積極的な海外遠征等による重点強化を進める方針である。

最後に「拠点強化」としては、所属先での強化を含む国内合宿を円滑に実施するため、練習施設の整備が不可欠である。石川県、三重県、静岡県等の公共プール施設では行政の協力を得ている。加えて、JOC競技別強化拠点事業である栃木県宇都宮市の日環アリーナ栃木は、競技に特化した室内練習施設が充実しており、通年で効率的な練習が可能である。さらに、2024年に開設された滋賀県草津市のインフロンニア草津アクアティクスセンターについても、昨年度に引き続き西日本の拠点として、トップレベルから初心者まで幅広い層を対象とした効果的な普及・強化活動を展開し、全国的な強化拠点のネットワークの構築を目指していく。

### (1) 国際競技会

① アジア競技大会	9月26日～10月3日	日本 TAC
② AQUA 2026 ワールドカップ Super Final	5月1日～3日	中国・北京
③ アジアエージ選手権	7月	タイ
④ 世界ジュニア選手権	8月21日～28日	クロアチア・リエカ
⑤ AQUA Malaysia Open Diving	10月30日～11月1日	マレーシア・クアラルンプール
⑥ AQUA 2026 ワールドカップ第1戦	未定	
⑦ AQUA 2026 ワールドカップ第2戦	未定	

### (2) 強化トレーニング

① 強化国内合宿		
(a) アジア競技大会強化合宿	6月	大阪
(b) 国内強化合宿 (2回)	未定	日環アリーナ栃木・滋賀
② ジュニア合宿		
(a) アジアエージ・世界ジュニア強化合宿	未定	日環アリーナ栃木
(b) ジュニア強化合宿 (2回)	12月	日環アリーナ栃木・滋賀

### (3) 企画・研修会および講習会

① 強化コーチ会議	10月他	多数回
② ブロック代表者会議	12月	
③ 公認審判員研修会		
(a) A・B級公認審判員中央研修会	5月～7月	数回
(b) C級公認審判員研修会	中央研修会後	随時
(c) 巡回教室	未定	
(d) 指導者育成研修	未定	

## 3. 水球強化事業

2025年にシンガポールで開催された世界選手権において、女子は日本水球史上初となる8位入賞、男子も過去最高位となる9位の成績を収めた。これらの成果を足掛かりとして、ロサンゼルスオリンピックにおける上位入賞を見据えた強化を本格化させるため、男子代表監督に塩田義法氏、女子代表監督に筈井翔太氏を据えた体制を継続し、一貫した指導・管理体制を構築する。両監督のもと、ロサンゼルスオリンピック出場を最重要課題とする強化計画を策定し、毎年のチェックポイントを設けながら実行する。また、年代別代表の指導体制に関する決定権限を保持し、各種研修会や代表合宿において、両監督が直接指導・助言を行う体制を確認する。将来の日本代表を担う大学生およびU18世代の育成を重点課題と位置づけ、U18世界ユース選手権をはじめとするAQUA主要大会への効率的な派遣を推進する。あわせて、欧州で活動する選手が増加している現状を踏まえ、代表選手が所属する海外拠点への両監督による視察や、リモートを活用した継続的なコミュニケーションを通じて、国内外の強化体制を有機的に統合する。さらに、国内競技会日程および代表合宿との調整を行い、所属チームの理解と協力を得ながら強化を継続する。

2026年の最大目標はアジア大会における男女アベック優勝とし、2027年ハンガリー世界選手権では過去最高位の更新を目指す。さらに、2027年五輪アジア予選においても男女ともに優勝を目標とする。

一方で、助成金の縮小を背景に、従来の助成金依存型の運営から脱却し、各競技会および派遣事業における収支バランスを精査する。受益者負担の適正化、スポンサーシップの拡大、クラウドファンディングの活用等を通じて、自立的かつ持続可能な運営基盤の構築を最優先課題とする。

さらに、水球競技全体の課題として、①スタッフの処遇改善、②収入拡大および広報戦略を推進する体制の強化、③競技別強化拠点の確保、④強化に資する国内競技会の見直し、⑤アクアゲーム等を活

用した水球ファン層の拡大に取り組み、選手および関係者と一丸となって競技改革を推進していく。

#### (1) チーム派遣

① AQUA ワールドカップ Division2 (男子)	4月7日～4月12日	マルタ
② AQUA ワールドカップ Division1 (女子)	5月1日～5月6日	オランダ・ロッテルダム
③ AQUA ワールドカップ Final (男子)	7月20日～7月26日	オーストラリア・シドニー
④ AQUA ワールドカップ Final (女子)	7月20日～7月26日	オーストラリア・シドニー
⑤ アジア大会 (男女)	9月20日～10月3日	日本・愛知
⑥ AQUA ワールドカップ Division2 (男子)	未定	未定
⑦ AQUA ワールドカップ Division2 (女子)	未定	未定

#### (2) 強化トレーニング合宿

① 欧州遠征 (男子)	1月予定	イタリア他
② 第1次～第4次国内強化合宿 (男子)	7月,9月,12月,2月/1週間程	未定
③ 第1次～第6次国内強化合宿 (女子)	4月,6月,7月,9月,12月,1月/1週間程	未定
④ 国内通い合宿 (男女)	7月, 11月, 1月, 2月	首都圏

#### (3) 企画・研修会および講習会

① 地方クリニック (女子)	年2回程度時期未定	未定
② U16・U17研修合宿	12月・3月	倉敷・柏崎
③ 国外視察	6月,12月,3月/1～2週間程	未定
④ 国内視察	通年	IH/国スポ 他
⑤ 科学情報収集	通年	JISS 他

### 4. アーティスティックスイミング強化事業

2025年度は、シンガポールで開催された世界選手権を最優先目標として取り組んできた。パリオリンピックから半数以上のメンバーが入れ変わり、ジュニア世代を加え若返った新チームで、アクロバティックルーティンでのメダル獲得を目標に強化を進めてきた。しかし、難度の高い技の習得および成功率の向上には至らず、10位という結果に終わった。チームフリーでは価値ある銀メダルを獲得し、選手の自信につながったものの、他種目ではチームテクニカルおよびデュエットテクニカルで4位、デュエットフリーで7位と、いずれもメダルには届かず、厳しい結果となった。ロシアの参戦もあった中、チームは3種目を中国が制し、デュエットテクニカルではオーストラリア、デュエットフリーではスペインが金メダルを獲得した。各国の実力が拮抗し、どの国にもメダル獲得の可能性がある中、メダル争いは一層厳しさを増している。8月にギリシャで開催された世界ユース選手権では、デュエットで銀メダル、ミックスデュエットで銅メダルを獲得したが、チーム7位、フリーコンビネーション6位と、メダルには届かなかった。10月の選考会ではアクロバティック強化に特化した選手の特別枠を設け、男子1名を含む12名を選考した。今後は、土台となるサポートスイマーの体力の底上げも重点にしながら強化を図っていく。

2026年度は、9月のアジア大会において、チーム種目で中国との得点差を詰めることを目標に強化を進める。引き続きアクロバティック強化を最重点課題とし、海外アクロバティック講師によるオンライン講習会の導入など、専門家の協力を得ながら強化を推進する。まずは国内で十分な身体作りを行い、その後ワールドカップに参戦して競技力向上を図る。また、世界ジュニア選手権（8月、ハンガリー・ブダペスト）に派遣し、次世代による表彰台を狙う。ミックスデュエットの普及と男子選手の拡充に向けた取り組みを継続するとともに、ユースエリート強化合宿も継続し、2028年以降の中心戦力となる選手を着実に育成していく。さらに、国際テクニカルコントローラーおよび国際審判員の育成・派遣にも注力していく。

### (1) 国際競技会

① AQUAASWC 2026 中国大会	5月 1日～5月3日	中国・西安
② AQUAASWC 2026 スペイン大会	5月29日～5月31日	スペイン・ポンテベ
③ AQUAASWC 2026 スーパーファイナル	6月19日～6月21日	カナダ・トロント
④ アジアエージ選手権	7月17日～7月25日	タイ・
⑤ 世界ジュニア選手権	8月12日～8月16日	ハンガリー・ブダペスト
⑥ アジア競技大会	9月26日～9月28日	日本・浜松
⑦ AQUAASWC 2027	未定	未定

### (2) 強化トレーニング合宿

① アジア競技大会強化合宿	4～9月	JISS
② 世界ジュニア選手権代表合宿	5～8月	JISS
③ AQUAASWC 大会代表合宿	10～3月	JISS ほか
④ 2028・2032五輪対策アクロバティック強化合宿	10～2月	JISS ほか
⑤ ユース有望選手特別強化合宿	9月	JISS
⑥ ユースエリート育成特別強化合宿	10～12月	JISS
⑦ 男子ジュニア強化合宿	12月	JISS
⑧ 最終選考会合宿	10月	JISS

### (3) 企画・研修会および講習会

① 全国強化担当者会議	10月	JISS
② コーチキャンプ	10月	HPSC
③ テクニカルコントローラー強化研修	年間	東京・大阪・加盟団体
④ テクニカルコントローラー研修会・派遣	年間	競技会開催地ほか
⑤ 審判強化研修	年間	東京・大阪・加盟団体
⑥ 審判研修会、レフリー派遣	年間	競技会開催地ほか
⑦ 競技者育成プログラムバッジテスト	年間	東京・大阪・加盟団体
⑧ 男子選手講習会	4月・10月	東京・大阪
⑨ 男子特別強化合宿	12月	JISS
⑩ アクロバティック強化合宿	10月～2月	JISS

## 5. オープンウォータースイミング強化事業

OWSは競泳1500m・800m自由形のタイムに加え、環境適応力が不可欠であり、両者を強化する必要がある。

2025年度は、世界選手権においてOWSとしては初となる女子10kmでの入賞、5kmでの銅メダル獲得、3kmノックアウトスプリントでの金メダル獲得という成果を挙げた。また男子においても、10kmで過去最高タイ順位となる11位という結果をおさめた。これらの成果は、開催地であったシンガポールの高水温環境に対し、十分な環境適応力を強化できたことが大きな要因であると考えられる。これまでOWS委員会としては、冬季に高地トレーニングを実施してきたが、年に1回にとどまり、それ以外は各所属チームに委ねていた。しかし、高地トレーニングを多く実施している選手ほど成績が良い傾向があり、また海外のトップ選手も積極的に高地トレーニングを活用している状況である。

これらを踏まえ、2026年度はOWS委員会として、高地トレーニングと環境順化合宿を強化の二本柱として実践していく。2026年には、ロサンゼルスオリンピックと同じ開催地であるアメリカ・ロサンゼルスにてパンパシフィック選手権が開催され、低水温環境が想定される。また時差も大きいことから、高地トレーニングをアメリカ・フラッグスタッフで実施する。さらに低水温環境への順化については、ロサンゼルスオリンピックまでの期間、日本の冬季における低水温トレーニングを継続的に実施していく予定である。これらを強化の主軸としつつ、2026年度上期には試合強化としてワールドカップ出場し、実戦感覚を養いながらパンパシフィック選手権へと向かって

いく。パンパシフィック選手権では10kmでの初メダル獲得を目標に強化を進める。

また、次世代強化も忘れてはならず、2025年度からスタートさせた大学生合宿も継続していく予定である。OWSは大学3年生頃から飛躍的に成長する選手がいることから、大学生の強化は極めて重要である。シニア代表に選出されていない選手であっても、委員会として計画的に強化すべき世代である。さらに、2年に1度開催される世界ジュニア選手権については、これまで10kmで男女各2名、7.5km・5kmは男女各1名を派遣してきたが、7.5kmについても男女各2名を派遣し、より多くの次世代選手にOWSのトップレベルを目指す意識改革を促していきたい。

現在、国際競技力の高い女子選手2名はいずれも、ジュニア期から国内合宿やジュニア国際大会への派遣を通じて競技力を向上させてきた実績がある。これらを踏まえ、第2の世界で活躍できるOWS選手を発掘・育成できるよう、強化事業を継続的に実施していく。

#### (1) 国際競技会

① AQUA ワールドカップ	4月25日～4月26日	スペイン・イビザ
② AQUA ワールドカップ	5月2日～5月3日	イタリア・ゴルフアランチ
③ AQUA ワールドカップ	6月20日～6月21日	ポルトガル・セチュバル
④ パンパシフィック選手権	8月10日	アメリカ・ロサンゼルス
⑤ 世界ジュニア選手権	9月3日～9月6日	アルゼンチン・サンタフェ

#### (2) 強化トレーニング合宿

① パンパシフィック選手権向け 高地トレーニング	7月13日～8月4日	アメリカ・フラッグスタッフ
② ナショナルチーム第1次合宿	11月6日～8日	千葉・館山
③ ナショナルチーム第2次合宿	12月1日～21日	長野・東御
④ ナショナルチーム第3次合宿	12月25日～29日	東京・JISS
⑤ 大学生合宿	1月31日～2月4日	東京・JISS

## 6. 科学事業

本連盟関係諸委員会、加盟団体、関連組織との連携を強化し、国内外の競技会における競技力向上に資する科学支援事業を展開する。競泳選手およびコーチへのレース分析データの提供効率を向上させるとともに、日本選手権水泳競技大会等において、映像データ（水上）の提供を継続的に実施する。飛込、水球、AS、OWSにおける日本選手権水泳競技大会等を対象として、科学サポートを継続・発展させる。合宿における科学サポートでは、選手自身が主体的に競技力向上を目指し、科学的見地から考察できる取り組みを行う。教育・啓発活動としては、日本水泳・水中運動学会の準備・開催に協力する。さらに、広報委員会と連携し、事業報告、科学サポート報告、ならびに学会が発信する最新の科学的知見について、月刊水泳などを通じて広く周知する。

#### (1) 競泳の科学サポート

- ① 競泳の主要競技会（日本選手権水泳競技大会、国民スポーツ大会などの全国大会）におけるレース映像の撮影・分析、競泳委員会と連携した科学サポートの実施
- ② データ利用の促進（競泳委員会との連携によるデータベース構築、情報システム委員会との連携によるデータ管理の適正化）

#### (2) 飛込、水球、AS、OWSの科学サポート

各競技会（日本選手権水泳競技大会、国民スポーツ大会などの全国大会）における競技映像の撮影・分析、各委員会と連携した科学サポートの実施

### (3) 主要合宿における科学サポート推進

- ① ジュニア選手を対象とした競泳エリート小学生研修合宿、ナショナル合宿などのサポート
- ② 飛込、水球、AS、OWSの主要合宿科学サポート

### (4) 教育・啓発・普及活動

- ① 日本水泳・水中運動学会年次大会（10月初旬、中央大学）の準備・実施への協力
- ② 「水泳の日」（盛岡市立総合プール）における水中撮影・映像提供（対象：一般スイマー）

## 7. 医事事業

2026年度は、本連盟関係諸委員会、HPSC、JOC、JSPO、JADA等と連携し、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動、競技会における救護活動、ならびに水泳競技をより安全に普及するための調査・研究・広報活動を実施する。また、9月に開催される愛知・名古屋アジア大会において医事運営が円滑に行われるよう協力する。

#### 【脳震盪】

医事委員会内のワーキンググループを中心に、競技者だけではなく、指導者、審判、保護者などすべての関係者を対象とした教育・情報提供活動を継続的に実施する。あわせて、脳震盪の予防対策に向け、活動内容のさらなる拡充を推進する。

#### 【女性アスリート支援】

アスリート委員会、競技力向上コーチ委員会とともに Women's Health Project for Japanese Swimmers (WHP)を運用し、地域指導者委員会の協力を得て各加盟団体における講習会を継続に実施し、女性アスリートの健康問題の解決に寄与することを目指す。

#### 【暑熱対策】

近年の温暖化に伴い、暑熱環境におけるトレーニングや競技会運営に問題を生じていることから、安全な運営を確保するため、医学的側面からのサポート活動を展開する。

### (1) 主要競技大会における医事運営

- ① 救護担当ドクターの派遣
- ② 救護用医薬品の管理

### (2) 競技選手へのメディカルサポート活動

- ① 選手のコンディショニングおよび外傷・障害・疾病の管理
- ② アンチ・ドーピング活動
- ③ 強化指定選手・ジュニア選手のメディカルチェック・障害予防対策
- ④ 強化指定選手・ジュニア選手の医事相談活動および調査研究活動
- ⑤ メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化
- ⑥ 国際大会・合宿などへの帯同ドクター・トレーナー派遣
- ⑦ 国際大会、海外合宿時の医薬品管理

### (3) 教育・啓発・研究活動

- ① World Aquatic Sports Medical Committeeとの協力
- ② 日本水泳ドクター会議・日本水泳トレーナー会議との連携・協力
- ③ 障害予防のための研究、予防対策の開発・普及
- ④ 指導者養成講習会への講師派遣
- ⑤ 脳震盪ワーキンググループによる教育・情報提供活動
- ⑥ WHPによる女性アスリート支援
- ⑦ 暑熱環境下での活動に対する医学的調査、研究活動

## 8. アンチ・ドーピング事業

### (1) 連盟主催競技会でのドーピング検査事業

国際的なアンチ・ドーピング活動の一環として、日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と連携し、連盟主催大会かつJADAが指定する「国内最高レベルの競技大会」においてドーピング検査（競技会検査）を実施する。また、該当競技会の監督者会議において、アンチ・ドーピングに関する啓発を行う。さらに、該当競技会のドーピング検査会場にNF代表役員を配置し、ドーピング検査が円滑に実施されるよう手配するとともに、検査が適正に行われていることを選手の視点からも確認する。

### (2) 世界記録および世界ジュニア記録認定のためのドーピング検査事業

国内の競技会で発生した世界記録および世界ジュニア記録の認定のため、規定の時間内にドーピング検査を実施するための手配をJADAと連携して行う。

### (3) その他の事業

- ① 競技会における配布資料やホームページ掲載資料の作成
- ② 治療使用特例(TUE)申請の助言
- ③ 強化合宿・研修会(オンライン含む)などでのアンチ・ドーピング講習会講師派遣
- ④ 連盟主催のアンチ・ドーピング講習を行う講師資格であるJADA承認クリーンスポーツ Educatorの育成・管理
- ⑤ 競技会会場でのアンチ・ドーピング啓発活動へのスポーツファーマシスト派遣(アウトリーチプログラムの実施)
- ⑥ JADA会議・研修会(オンライン含む)への出席
- ⑦ ホームページ上での医薬品使用に関する「薬の相談窓口」対応

## Ⅲ 競技運営推進事業（競技大会開催事業）

更なる競技大会の充実に向けて全国の加盟団体と連携して取り組む。「する」・選手が最高のパフォーマンスができる環境づくりを最優先に、「観る」・魅力ある競技会を行うことで、水泳ファンを拡大し、会場に来てくれる子供たちを含めた観客を増やすために「支える」・関係者、競技役員が一丸となってAQUA CREWとして高いレベルの競技大会を作り上げる。競泳・飛込・水球・AS・OWSそれぞれが総力を挙げて、全ての競技大会を計画に沿って実施する。

### 1. 国内競技会開催事業

国内で開催される各大会において、開催地ならびに主管・共催団体との連絡調整を密に行い、企画・立案・運営・予算管理を着実に実施し、準備から大会終了までを一貫して統括する。全国で統一された運営を一層推進して、選手が自己の持てる力を最大限発揮できる質の高い競技大会を実現する。2024年度から年度末の3月に実施していた日本選手権水泳競技大会競泳競技の開催時期について変更する。2026年度は6月4日から7日までの日程でTACにて実施する。また、日本選手権水泳競技大会(25m)については、地方開催として、佐賀県のSAGA アクアで実施する。なお、全国中学校水泳競技大会は（公財）日本中学校体育連盟主催として最後の大会となる。

#### (1) 【競泳競技】

① 日本大学・中央大学対抗戦	4月11日	TAC	東京
② 早慶対抗水上競技大会	4月12日	TAC	東京
③ 日本選手権水泳競技大会	6月4日～7日	TAC	東京
④ 全国国公立大学選手権大会	8月7日～9日	パーソルアクアパーク宮崎	宮崎

⑤	日本高等学校選手権大会	8月13日～16日	インフロニア草津 AC	滋賀
⑥	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	ひろしんビックウェーブ	広島
⑦	全国 JOC ジュニアオリンピック ックアップ 夏季大会	8月22日～26日	TAC	東京
⑧	日本学生選手権水泳競技大会	9月3日～6日	東和薬品 RACTB ドーム	大阪
⑨	国民スポーツ大会	9月11日～13日	マエダアリーナ50m プール	青森
⑩	日本選手権水泳競技大会 (25m)	10月10日～12日	SAGA アクア	佐賀
⑪	日本社会人選手権水泳競技大会	10月31日・11月1日	パーソルアクアパーク宮崎	宮崎
⑫	ジャパンオープン2026 (50m)	12月4日～6日	TAC	東京
⑬	全国 JOC ジュニアオリンピック ックアップ 春季大会	3月27日～30日	TAC	東京

## (2) 【飛込競技】

①	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	インフロニア草津 AC	滋賀
②	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	福山通運ローズアリーナ	広島
③	全国 JOC ジュニアオリンピック ックアップ 夏季大会	8月22日～25日	Asue 大阪プール	大阪
④	日本学生選手権水泳競技大会	8月29・31日	Asue 大阪プール	大阪
⑤	日本選手権水泳競技大会	9月4日～6日	インフロニア草津 AC	滋賀
⑥	国民スポーツ大会	9月10日～12日	セントラルスポーツ宮城 G21 プール	宮城
⑦	翼ジャパンダイビングカップ	3月18日～21日	日環アリーナ栃木	栃木
⑧	全国 JOC ジュニアオリンピック ックアップ 春季大会	3月27・28日	日環アリーナ栃木	栃木

## (3) 【水球競技】

①	日本選手権水泳競技大会最終予選会	6月6日～8日	クロコくんアリーナ	愛知
②	日本選手権水泳競技大会	8月13日～16日	千葉県国際総合水泳場	千葉
③	日本高等学校選手権大会	8月18日～21日	インフロニア草津 AC	滋賀
④	全国 JOC ジュニアオリンピック ックアップ 夏季大会	8月22日～26日	京都アクアリーナ	京都
⑤	国民スポーツ大会	9月5日～8日	マエダアリーナ50m プール	青森
⑥	日本学生選手権水泳競技大会	9月10日～13日	千葉県国際総合水泳場	千葉
⑦	全日本ユース (U16) 選手権大会	12月24日～27日	児島マリンプール	岡山
⑧	全日本ジュニア (U17) 選手権大会	3月19日～22日	県立柏崎アクアパーク	新潟
⑨	全国 JOC ジュニアオリンピック ックアップ 春季大会	3月26日～30日	千葉県国際総合水泳場	千葉

## (4) 【アーティスティックスイミング競技】

①	日本選手権水泳競技大会	5月22日～24日	TAC	東京
②	日本アーティスティックスイミングチャレンジカップ 2026	8月7日～9日	東和薬品 RACTB ドーム	大阪
③	全国 JOC ジュニアオリンピック ックアップ 夏季大会	8月22日～25日	横浜国際プール	神奈川
④	日本学生選手権水泳競技大会(マレットカップ)	8月30日	横浜国際プール	神奈川
⑤	国民スポーツ大会	9月3日	マエダアリーナ50m プール	青森
⑥	ユースソロ・デュエット大会	1月16日	TAC	東京
⑦	アーティスティックスイミングナショナルトライアル2026	1月17日	TAC	東京

## (5) 【オープンウォータースイミング競技】

①	オーシャンズカップ2026	6月21日	館山市北条海岸	千葉
②	国民スポーツ大会	9月9日	サンセットあさむし特設会場	青森
③	日本学生選手権水泳競技大会	10月3日～4日	館山市北条海岸	千葉
④	全国 JOC ジュニアオリンピック ックアップ	10月3日～4日	館山市北条海岸	千葉
⑤	日本選手権水泳競技大会	10月17日・18日	館山市北条海岸	千葉

## 2. 国際競技会の開催事業

第20回アジア大会の水泳競技各種目の大会を全力を尽くして成功に導く。アジア水泳連盟（Asia Aquatics）組織委員会、開催地加盟団体と連携し、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるような競技会を目指す。

① パンパシフィック選手権	8月12日～15日	アーバイン	アメリカ
② ジュニアパンパシフィック選手権	8月17日～20日	バンクーバー	カナダ
③ アジア大会	9月19日～10月4日	愛知・静岡・東京	日本
④ 世界選手権（25m）	12月 1日～6日	北京	中国

## 3. 競技委員会事業

### （1）競技会事業

本連盟主催大会では、開催地の加盟団体をはじめ、本連盟学生委員会、JSPO、（公財）全国高等学校体育連盟、（公財）日本中学校体育連盟などの関係スポーツ団体と連絡調整を密に行い、準備から大会終了までを一貫して統括することで、全国で統一した大会運営を目指す。国民の期待に応えるべく、高いレベルの大会を実現できるよう全力を尽くす。また水泳競技会に実際に足を運んでいただく来場者や、オンラインやテレビ等を通じて視聴するファンの拡大に向けた取り組みを継続的に実施する。

### （2）学生競技会事業

第102回日本学生選手権（インカレ）は、競泳を東和薬品 RACTAB ドーム、飛込を Asue 大阪プール、水球を千葉県国際総合水泳場、AS を横浜国際プール、OWS を館山・北条海岸にて開催する。飛込では大学の枠を超えたチームイベントを導入し、AS ではミックステュエットを新設するなど、競技特性に応じたインカレ運営を行う。

第73回全国国公立大学選手権は、2027年の国民スポーツ大会開催を控えたパーソルアクアパーク宮崎にて、地元行政と連携し開催する。

加盟6支部においては、全国大会の予選会をはじめとする支部主催の競技会を通じて、学生水泳の強化と普及に寄与するとともに、健全な競技環境を整えるため「学生向けアンチ・ドーピング講習会」・「スポーツ・インテグリティの啓発」を継続して実施する。

インカレ競泳および全国国公立については、現状を分析したうえで、実施種目や競技日程等に関する具体的な検討にはいる。

再開した全国学生選抜合宿は、隔年開催のため、再開にあたって明らかになった課題を精査し、次回開催に向けての準備を行う。

なお、学生委員会（会議）を毎月開催し、各支部間の相互連絡および融和を図るとともに、厳正な学生水泳競技精神の養成・向上を目指す。学生競技役員を育成し、日本選手権など本連盟主催の競技会事業に対する学生の派遣を行う。

## 4. 国際関係事業

### （1）国際関係の情報収集および共有

- ① AQUA 幹部および Asia Aquatics 幹部との情報交換  
JAQUA 幹部と AQUA 幹部との情報意見交換会議の開催
- ② AQUA 審判資格 Pathway 習得プログラムの情報更新  
国際審判就任に向けた AQUA 資格の擦り合わせおよびテスト受講

## (2) 国際競技会及び講習会の招致、国際審判員の国際大会派遣

- ① AQUA および Asia Aquatics が主催する国際競技会の開催  
第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）の準備および開催、各種目の国際大会の招致による選手活性化
- ② アジア大会（2026/愛知・名古屋）期間中に AQUA 認定審判講習会の開催
- ③ 各競技の国際審判員のスキルアップ、グレードアップの為に国際大会派遣

## (3) 外国役員の待遇

国際会議や主要国際競技大会等の諸行事における AQUA および Asia Aquatics 幹部の接遇、通訳を行う。

## (4) 人材育成プログラム支援

今後、グローバル人材確保の為に、養成プログラム等の支援、サポート

# IV 競技運営推進事業（競技条件整備事業）

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備するとともに、各種基盤・インフラを整備し、その水準を維持することにより、さらなる水泳競技の普及発展を図る。

## 1. 競技者登録事業

競技者登録管理システム（WebSWMSYS）における重複登録の解消および機能改善を計画的に進め、システムの安定稼働と運用効率の向上を図る。また、将来的には決済システムの導入を視野に入れ、関連業務の効率化と業務負担の軽減を推進する。

## 2. 競技規則制定事業

「競泳競技規則」「競技役員の手引き」ならびに各種別の国内競技規則についての的確な情報発信を行い、全国統一の理解・共通認識の下で、選手が安心して競技に取り組める環境整備を推進する。

## 3. 競技役員養成・登録事業

「水泳ニッポン・新時代構想」に準拠し、全国の競技会をより充実させることを目的として、選手の力を最大限に引き出す AQUA CREW である競技役員・審判員を養成する。国際基準の視点を培い、「世界トップレベルの水準で、全国で統一された競技会運営」のさらなる定着を目指す。

競技役員資格取得者18,000人を目標に、本連盟の方針および改定された競技規則が全国各地で浸透するように取り組む。そのため、競技役員研修会を充実させ、リモート形式を含めたブロック研修会および各加盟団体主催の研修会を着実に実施する。全国大会開催予定の加盟団体が実施するリハーサル大会などに本連盟の競技委員を派遣し、競技会運営の指導を行う。

さらに、日本選手権水泳競技大会などの本連盟主催の競技会に各加盟団体から競技委員長や中核となる審判員に実技研修として参加いただき、最新の競技運営の習得を目的とした実技研修を実施する。全国競技委員長会議は、リモート会議形式で4月に実施する。

#### 4. 競技記録公認・管理事業

競技者の競技結果を公認し、管理する事業を推進している。記録管理報告サイトの運用により、記録の報告・管理・保全に関する業務の効率化および省力化が図られ、各地で開催される公認公式競技会における「3日以内の記録結果報告」も、加盟団体の協力を得て定着してきている。引き続き、記録管理報告サイトの安定稼働を確保するとともに、3日以内報告の一層の定着を目指す。また、「超速」のバージョンアップを行い、競技会における運用のさらなる推進を図る。

#### 5. 施設用具公認推薦事業

「プール公認規則」に則り、新規公認および再公認のプール公認事業を行う。  
また、「水泳及び水泳競技に使用される用器具類やシステム等の公認・推薦規程」に則り、水泳競技に関わる用器具類などの公認・推薦事業を行う。

### V 普及事業

普及事業は、強化事業と並び、本連盟の二本柱を成す重要な事業である。2026年度も、指導者養成事業、生涯スポーツ・環境事業、OWS 普及事業、日本泳法保存事業、機関誌発行事業、ホームページや SNS などを活用した広報事業に取り組む。「水泳の日」については、水泳愛好者や水泳ファンを含む AQUA CREW の拡大を目指すとともに、水難事故防止の観点から全国展開を継続・推進する。

#### 1. 指導者養成事業

水泳競技の普及・振興および競技力向上を担う各種スポーツ指導者の資質ならびに指導力の向上を図るため、JSPO および他関係団体と連携協力し指導者養成事業を実施する。あわせて、JSPO が実施する指導者資格再登録や、公認スポーツ指導者管理システム「指導者マイページ」の活用、オンライン・リモートによる受講システムを併用する。これにより、指導者資格取得者の資格保持の継続および拡大を図るとともに、受講者の利便性向上や効果的な情報配信方法の充実を目指す。

##### (1) 地域指導者養成事業

- ① 指導者養成事業
  - (a) JSPO 公認水泳コーチ 1・2 (以下コーチ 1・2) の新規養成
  - (b) 加盟団体を通じた本連盟公認基礎水泳指導員 (以下基礎水泳指導員) の新規養成
  - (c) 競技実績を有するアスリート・指導者の基礎水泳指導員資格免除認定審議
  - (d) 免除適応校 (大学) の養成事業に対する助言・指導
  - (e) 免除適応校 (専門学校) の養成事業に対する助言・専門科目の検定
- ② 指導者研修事業
  - (a) 水泳コーチ 1・2 ならびに基礎水泳指導員の更新研修に対する督励・助言・指導
  - (b) 指導者に対するコンプライアンス・インテグリティ教育の展開
  - (c) 学校水泳指導者に対する研修事業
- ③ 指導者登録事業
  - (a) 水泳コーチ 1・2 の新規・更新登録
  - (b) 基礎水泳指導員の新規・更新登録・管理のシステム化
- ④ 加盟団体との連携

- (a) 全国地域指導者・普及委員長会議を通じた指導者養成事業の共通理解と厳格・公正・均質化
- (b) 地区別委員長会議等への委員の派遣により、地域における指導者養成事業の課題の把握と督励
- ⑤ 水泳の普及に関する事業
  - (a) 指導者養成事業の広報
  - (b) 水泳の安全に関する研究と普及

## (2) 競技力向上コーチ養成事業

- ① 水泳競技コーチ資格審査の実施
- ② 水泳競技コーチ資格の新規登録・再登録、登録更新手続きの改善
- ③ 水泳競技コーチ更新研修会の実施（研修方法と内容の改善）
- ④ 水泳競技コーチ新規養成講習会の実施
- ⑤ 免除適応校制度の充実化（各種目の資格取得の促進）と拡大
- ⑥ 水泳競技コーチへの伝達および問合せ対応の効率化

## (3) 水泳教師養成事業

- ① 水泳教師新規養成事業の推進（（一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）
  - (a) 適応コース検定会の実施（本連盟担当）
  - (b) 適応コース認定校の新規開拓（本連盟担当）
- ② 新規養成コース講習検定会の実施（（一社）日本スイミングクラブ協会担当）
- ③ 有資格者の更新研修が可能なスキルアップセミナー開催（首都圏、ほか）（本連盟担当）
- ④ 水泳教師資格の新規・更新登録事業（（一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ⑤ 水泳教師資格更新研修会事業（（一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ⑥ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（（一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）

## 2. 生涯スポーツ・環境事業

マスターズ水泳事業は、（一社）日本マスターズ水泳協会および JSPO と連携し、日本スポーツマスターズ大会のさらなる発展を目指し、開催地における大会企画・運営を支援する。

泳力検定事業は、運用を開始した「泳力検定システム」を活用し、水泳愛好者の裾野拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門と位置づけ、水泳技能に関わるスポーツ検定として推進する。

「水泳の日」事業は、岩手県盛岡市・盛岡市立総合プールにて開催する。実行委員会を中心に、（一社）日本スイミングクラブ協会、（一社）日本マスターズ水泳協会、（一社）日本パラ水泳連盟、（一社）岩手県水泳連盟ならびに各委員会・関連団体と密に連携し、企画・立案・運営に全力を尽くす。

### (1) 日本スポーツマスターズ事業

- ① 「日本スポーツマスターズ2026水泳競技石川大会」の開催  
（8月29日～30日：石川県金沢市 金沢プール）
- ② （一社）日本マスターズ水泳協会および JSPO と連携した大会のさらなる発展
- ③ 幅広い年齢層の選手が、生涯アスリートとしてマスターズ水泳に取り組むきっかけとするとともに、元気や生きがいを感じながら、生涯スポーツとして水泳を継続し、ひいては健康増進を図ることを支援する目的として拡充を図る。

## (2) 「水泳の日」開催事業

- ① 「水泳の日2026・岩手（仮称）」の開催（11月8日：盛岡市立総合プール）
- ② 加盟団体が継続して主催開催する「水泳の日」への支援および連携
- ③ イベントに関わる会議の企画・立案・運営のパッケージ化
- ④ 各委員会および関連団体との連携・連絡調整
- ⑤ （一社）日本記念日協会より記念日として認定された「水泳の日」の周知

## (3) 泳力検定事業

- ① 泳力検定受検者および合格者の増加促進
- ② ニチレイチャレンジ特別泳力検定会（15会場以上）などの企画・立案・運営
- ③ 泳力検定優秀団体の表彰
- ④ 泳力検定未実施団体（スイミングスクールなど）へのアプローチ強化
- ⑤ 「泳力検定システム」の運用促進および普及啓発

## (4) 優秀団体表彰

- ① 水泳普及・振興活動を永続的かつ組織的に実施し、実績を挙げた団体の表彰

## (5) 「安全な水泳教育」の普及

- ① アスリート委員会と連携した、「命を守るスポーツ」としての水泳教育、環境教育の整備

## (6) スポーツ環境保全活動の啓発、推進、情報発信

- ① ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した事業運営の推進
- ② 地域・社会の環境活動に取り組むとともに、各団体との環境活動の連携、支援・協力
- ③ 環境活動の情報の発信
- ④ 環境活動「Wear to Fashion」

スポーツによる社会貢献活動の一環として、衣類の循環で「捨てない選択肢」を提供し、未来へつなげるプロジェクト「Wear to Fashion」を実施し、水着やチームウェア等を回収してリサイクル・リユースに繋げる取り組みを複数の主要大会にて実施

## 3. オープンウォータースイミング普及事業

- (1) OWS スイムクリニック、OWS 検定事業の開催
- (2) OWS 公認審判員養成（審判講習会の開催）
- (3) 公認 OWS コーチの養成（更新講習会の開催）
- (4) 認定 OWS 大会運営仕様の標準化と普及
- (5) 認定 OWS 大会サーキットシリーズ年間優秀選手表彰

## 4. 日本泳法保存事業

四方を海に囲まれ川や湖も多いわが国では、古くから水と生き、一方で水の脅威にもさらされてきた。そのような環境が日本独自の泳法を生み出し、それらは游泳術、水術などと呼ばれ、命を守る実用の泳ぎ「日本泳法」として今日でも全国各地で継承されている。現存する13流派の游泳術や水術の保存と普及を図るため、日本泳法大会ならびに日本泳法研究会を柱として下記の事業を実施する。

日本泳法競技については、従来の日本泳法大会のみを想定した競技規則の全面的な見直しにより、これまで以上

に各流派・各派の普及伝承の一助としつつ日本泳法そのものの普及・発展の機会とすることを目的として、大会や競技会のあり方、競技内容等について具体的な改革に着手する。また、流派を問わない公平・公正な演技評価は、選手のモチベーションアップと演技審査の質的向上につながることから、審判研修会を実施する。

資格審査については、上位資格取得を目指して研鑽を継続することが、指導者層の育成につながり、自己研鑽としての日本泳法の継続を後押しすることからこれを推進する。本年度は、日本泳法大会および日本泳法研究会がいずれも関西圏（和歌山・愛媛）で開催されることから、入門者が最初に受ける游士資格審査会を、関東において1回開催する。さらに、有資格者の上位資格へのチャレンジを支援し、正しい泳法の保存を目的とする日本泳法研鑽会を継続して実施する。

日本独特の水泳文化である日本泳法を広く発信するため、競技委員会の協力を得て、競泳の競技会などで日本泳法プロモーションビデオを活用するほか、様々な機会を通じた広報活動を推進する。

また、国民皆泳の精神を受け継ぐ「水泳の日」事業には、開催および隣県を含む各流派団体の協力を得て参加する。

(1) 第71回日本泳法大会	8月22・23日	秋葉山公園県民水泳場
(2) 審判研修会	3月21日	MESSA SPORTS CLUB
(3) 第74回日本泳法研究会 課題「主馬神伝流」	3月20・21日	マリエール大洲・MESSA SPORTS CLUB
(4) 游士資格審査会(千葉会場)	10月11日	千葉県国際総合水泳場
(5) 第23回日本泳法研鑽会(千葉会場)	10月11日	千葉県国際総合水泳場
第24回日本泳法研鑽会(愛媛会場)	3月21日	MESSA SPORTS CLUB

## 5. 機関誌発行事業

2026年度より、機関紙「月刊水泳」で扱ってきた記事は原則としてウェブ掲載とする。ただし、ウェブ掲載のみでは過去を振り返りにくく、記事の検索や記録の保全という点において懸念が残る。そこで、従来の機関紙は年4回（1月、4月、7月、10月）発行の季刊誌とし、連盟の記録誌としての性格を強めていく。

## 6. 広報事業

### (1) 公式ホームページ（HP）

- ① 機関誌に掲載していた記事を「JAPAN AQUATICS MAGAZINE」としてウェブに移行し、迅速な掲載に努める。
- ② 大会レポートに加え、連盟の事業もホームページで詳しく紹介し、活動の周知を図る。
- ③ SNS(Facebook、Instagram、X(旧 Twitter))での情報発信を継続し、大会、選手紹介、事業など幅広く広報する。キャンペーンなども行い、ファン獲得とサービス向上に努める。
- ④ 過去に発行した機関誌「月刊水泳」のPDF版を順次公開する。

### (2) 報道対応

AQUA CREW の理念にもとづき、メディアも水泳を支える関係者の一員と位置付け、発信の拡大をめざす。規律とホスピタリティを両立させた対応を図る。

### (3) 記念誌発行事業

100周年記念式典などを盛り込んだ連盟歴史書としての役割を担う「日本水泳連盟 100年史」の準備・制作を継続して進める。

## 7. アスリート委員会事業

### (1) 現役アスリートの意見集約

- ① 本連盟への提案、提言

### (2) 現役アスリートへのサポートの検討

- ① 女子選手の生理に関する啓発
- ② アスリートのキャリアトランジションに関する啓発
- ③ 必要に応じたサポートの調査

### (3) ジュニアアスリートへの動機づけ

- ① ジュニアアスリートおよび保護者に向けた情報発信・交流
- ② 各地のジュニア合宿、講演会などへのオリンピック派遣

### (4) 水泳の普及への貢献

- ① 水泳の日など、本連盟の普及事業への貢献
- ② 公式 SNS を活用した情報発信
- ③ 新規登録者および水泳ファン獲得に向けた普及イベント

### (5) オリンピアン OBOG 会のネットワーク強化

- ① 本連盟事業への協力呼びかけ
- ② オリンピアン OBOG 総会・懇親会の開催

## 8. 国際貢献事業

### (1) 要請に応じた水泳指導者の海外派遣制度の検討

### (2) 指導力と語学力を兼備した水泳指導者の海外派遣制度の検討

## VI 組織運営のための共通事業

先達が築いた水泳ニッポンの歴史・伝統・礎のもと、組織力の一層の強化を図り、競技団体としての価値向上に資する高潔・公正な組織運営を徹底する。

### 1. 総務関係事業

「スポーツ団体ガバナンスコード<中央競技団体向け>」に基づき、コンプライアンス施策の継続的な検討および実施を行う。また、本連盟各種会議および地域会議の準備・開催を通じて、内外の関係者および関係団体との情報共有ならびに意思疎通を図り、円滑な業務を遂行する。

### 2. マーケティング事業

2028年ロサンゼルスオリンピックを見据え、オフィシャルスポンサー、パートナー、サプライヤーなどの各企業との連携を一層強化するとともに、新規協賛企業の獲得に取り組む。SDGs やウェルビーイングに関する活動など、時代の要請に対応した各種施策を推進し、水泳ファンおよび水泳愛好者への

リーチ拡大を図ることで、AQUA CREW の拡充を進め、スケールメリットを生かしたマーケティング戦略を構築する。

### 3. 特別委員会事業

(1) 財務委員会 広告募集および免税募金事業の推進	財務委員長	村木 茂
(2) 危機管理委員会 緊急時対応および危機管理意識の啓発と指導	危機管理委員長	鈴木 大地
(3) 選手選考委員会 国際競技会派遣日本代表選手団の選考	選手選考委員長	鈴木 大地
(4) 指導者養成委員会 指導者養成制度の推進と資格認定審査	指導者養成委員長	齋藤 由紀
(5) 倫理委員会 倫理、社会規範意識の啓発と指導	倫理委員長	金子 日出澄
(6) 次世代構想委員会 次世代構想の策定	次世代構想委員長	金子 日出澄
(7) 資格審査委員会 指導者および審判員資格の認定審査 国際審判員の推薦についての審議と決定	資格審査委員長	齋藤 由紀

## Ⅶ 組織運営および財政基盤の確立

「水泳ニッポン・新時代構想」を踏まえ、各事業の内容について精査および充実を図る。事業の実施にあたっては、各加盟団体の協力のもと進めるとともに、スポーツ庁、JSPO、JOC をはじめとする関係機関との連携を強化し、円滑な推進を図る。また、組織運営においては、ガバナンスの強化およびコンプライアンスの徹底を通じて、組織基盤の強化に努める。加えて財政面においては、全体の収支バランスを十分に考慮し、効率的かつ適切な事業執行と厳格な予算管理を徹底する。